

松江総合医療専門学校 学校関係者評価委員会

1. 日 時：令和3年6月25日（金） 10：30～12：00
2. 出席者：【委員】 米田 ときこ、太田 真英、小林 央、多久和 宣久、高橋 光、
原田 あゆ美（欠席）

【学校】 理事、学校長、副学校長/作業療法士科学科長、
理学療法士科学科長、看護学科学科長、総務課長

3. 次 第： ①開会
②学校長 挨拶
③学校評価委員について
④学校概要について
⑤自己評価について
⑥質疑応答
⑦閉会

次第に沿って進行し、課題等について、意見、質疑応答を行った。

■学校関係者評価委員からの意見

【社会貢献・地域貢献】

地元大野地区では高齢化率が46%を超え、少子高齢化が著しい。松江総合医療専門学校が立地していることにより、学生（若者）とも触れ合う事ができ、活性化に大きく貢献している。高齢者クラブの行事、地域のなごやか事業、ふるさと祭りなど最近はコロナ禍で中止となったが、今後も引き続きボランティアに協力してもらいたい。3年程前から、松江市の事業で松江総合医療専門学校に協力いただき、フレイルの健康調査から転倒予防について指導いただいた事を契機に、健康フェスティバルを開催し、非常に好評であった。また、高齢者に対して、健康のアドバイスをしてもらいたい。

【教育理念・目標】

医学倫理、職業倫理は就職先でももちろん指導するが、学生のうちからよく理解してもらうことが大変重要である。また、教育理念を常に教職員が意識していないと、学生には伝わらない。医療従事者であるということはメンタルをコントロールすること。メンタルを鍛え、医療従事者であるということをよく学生に理解してもらうことが重要。学校としてこのことに取り組んでももらいたい。

【学生支援】

学生相談の体制強化について、学生が相談しやすいような工夫が必要なのではないか。また、思いを表出することが難しい学生もいる為、できるだけロールプレイを取り入れながらやっていくような方法を考えていった方が良いのではないか。そこから色々な意味の職業倫理が生まれてくるのではないか。

【教育環境】

防災マニュアルについては整備しており、消防署の指導の下、避難訓練を実施している。

【学修成果】

卒後の人間を育成する観点からいくと、生涯教育のカリキュラム、卒業後に研鑽を積む体制が厳しくなっているのではないか。卒後、卒前一貫して支援ができるような体制を充実していきたい。情意領域の部分が課題になっている。1年次より、常日頃からどう人と接するのか、社会人として人と接するスキルをより高めていくことを改めてお願いしたい。

松江総合医療専門学校は地元の就職率が高い。定住化に関し、とても大切だということ、アピールしていくことが必要と思っている。

【外部委員】

米田 ときこ	松江市議会議員
太田 真英	一般社団法人 島根県理学療法士会 前会長
小林 央	一般社団法人 島根県作業療法士会 会長
多久和 宣久	松江市大野地区自治振興協議会 会長
高橋 光	株式会社エフエム山陰 副部長
原田 あゆ美	錦海リハビリテーション病院

【内部委員】

安藤 瑞也	理事
福島 律子	学校長
片山 優子	副学校長/学科長（作業療法士科）
安平 光一郎	学科長（理学療法士科）
石倉 清乃	学科長（看護学科）
藤原 ゆき絵	総務課長